

報告者	指導者養成部
内容	<p>【調査の目的】</p> <ul style="list-style-type: none">・コーチや保護者のインテグリティに関する意識や行動の実態把握、言動の変化について調査し、今後の活動に役立てることを目的とする。 <p>【回答数】</p> <ul style="list-style-type: none">・総回答数：6,160件 有効回答数：5,447件（無効704件） <p>【結果概要】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 「インテグリティ」の内容については76.6%のコーチが理解し、「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム～暴力暴言根絶～」の啓発活動については83.8%のコーチが知っていると回答。 ⇒インテグリティに関する啓発活動の効果が出ている。2. インテグリティに関する講習は、43.3%のコーチが未受講。 ⇒インテグリティに関する講習を受講するよう促す必要。3. JBAの取り組みによってコーチ自身の行動や言動が変化したかについては60%のコーチが変化したと回答、その理由としては「JBAが掲げるインテグリティの考え方に賛同した」（80.3%）、「JBAプレーコーリングガイドラインが更新されたから」（40%）。 ⇒インテグリティに関する啓発活動の効果が出ている。4. 暴言については、約90%のコーチが否定的な考えを持っている。その一方で、「他者の暴言に対しては見過ごしてしまう」、「時には暴言が必要」と感じているコーチが一定数存在する。また、暴言はプレーヤーだけでなく審判やコミッショナーに対しても発せられていると申告しているコーチがいる。 ⇒暴言を見過ごさない環境づくりの必要性。

内容

5. **練習では試合に比べ暴言を発することが多い**と申告しているコーチがいる。
⇒日常の暴言暴力根絶徹底。
6. 暴力については、**約95%のコーチが否定的な考え**を持っている。その一方で、「**他者の暴力は見逃してしまう**」、「**暴力を多目に見ても良い**」と感じているコーチが**一定数存在**する。
⇒暴力を見過ごさない環境づくりの必要性。
7. 自チームまたは他チームにおいて**保護者から暴言があると感じているコーチは48.7%**。他の指導カテゴリーに比べ、**U12・15カテゴリーでその傾向が強い**。また、保護者の問題と感じられる言動は、子どものみならず指導者、審判等に及んでいる。
⇒保護者への啓発活動推進。
8. 全体として「**保護者・プレーヤーの家族との関係づくり**」に困っていると回答したコーチが多い（**16.8%**）。**U12・15・18の指導カテゴリーにおいてその傾向が強い**。
⇒保護者との協力体制構築。

以上